

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 社会福祉法人逗子市社会福祉協議会

研修事業の名称 逗子社協介護職員初任者研修通学コース

1 職務の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
(1)多様なサービスの理解	3時間	【講義内容】 (ア) 介護保険サービス(居宅・施設) (イ) 介護保険外サービス
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	【講義内容】 (ア) 居宅・施設の多様な職場におけるそれぞれの仕事内容 (イ) 居宅・施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ (ウ) ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険以外のサービスを含めた地域の社会資源との連携 【演習】 ・グループワークで介護職のイメージを話し合い、仕事の内容を理解する。
合計	6時間	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
(1)人権と尊厳を支える介護①	3時間	(ア) 人権と尊厳の保持 ①個人としての尊重、②アドボカシー、③エンパワメント、④「役割」の実感、⑤尊厳のある暮らし、⑥利用者のプライバシーの保護 (イ) ICF ①介護分野におけるICF (ウ) QOL ①QOLの考え方、②生活の質
(1)人権と尊厳を支える介護②	3時間	(エ) ノーマライゼーション ・ノーマライゼーションの考え方 (オ) 虐待防止・身体拘束禁止 ①身体拘束禁止、②高齢者虐待防止法、③高齢者の養護者支援 (カ) 個人の権利を守る制度の概要 ①日常生活自立支援事業、②成年後見制度、③苦情解決の制度④個人情報保護法、⑤消費者保護法 【演習】 ・ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れた介護の目標や展開についてグループ討議等で理解を深める。 ・事例検討： 身体拘束に関する事例からしてはいけない行動を探る。

(2) 自立に向けた介護	3 時間	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自立支援 ①自立・自律支援、②残存能力の活用、③動機と欲求、④意欲を高める支援、⑤個別性／個別ケア、⑥重度化防止 ●介護予防 ・介護予防の考え方 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立・自律支援、残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性・個別ケア、重度化防止、介護予防の考え方を取り入れた介護の目標や展開についてグループ討議等で理解を深める。
合計	9 時間	
3 介護の基本（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 時間	<p>【講義内容】</p> <p>(ア) 介護環境の特徴の理解</p> <p>①訪問介護と施設介護サービスの違い② 地域包括ケアの方向性</p> <p>(イ) 介護の専門性</p> <p>①重度化防止・遅延化の視点、②利用者主体の支援姿勢、③自立した生活を支えるための援助、④根拠のある介護、⑤チームケアの重要性、⑥事業所内のチーム、⑦多職種から成るチーム</p> <p>(ウ) 介護にかかわる職種</p> <p>①異なる専門性を持つ他職種の理解、②介護支援専門員、③サービス提供責任者、④看護師等とチームとなり利用者を支える意味、⑤互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、⑥チームケアにおける役割分担</p>
(2) 介護職の職業倫理	1.5 時間	<p>【講義内容】</p> <p>(ア) 職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 <p>(イ) 介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）</p> <p>①介護職としての社会的責任、②プライバシーの保護・尊重</p>
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5 時間	<p>【講義内容】</p> <p>(ア) 介護における安全の確保</p> <p>①事故に結びつく要因を探り対応していく技術</p> <p>②リスクとハザード</p> <p>(イ) 事故予防、安全対策</p> <p>①リスクマネジメント、②分析の手法と視点、③事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町への報告等）、④情報の共有</p> <p>(ウ) 感染対策</p> <p>①感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、②「感染」に対する正しい知識</p>

(4) 介護職の安全	1.5 時間	【講義内容】 (ア) 介護職の心身の健康管理 ①介護職の健康管理が介護の質に影響、②ストレスマネジメント、③腰痛の予防に関する知識、④手洗い・うがいの励行、⑤手洗いの基本、⑥感染症対策 【演習】 腰痛予防、感染症対策を踏まえた手洗い、うがい等を演習により理解を深める
合計	6 時間	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
(1) 介護保険制度	3 時間	【講義内容】 (ア) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ①ケアマネジメント、②予防重視型システムへの転換、③地域包括支援センターの設置、④地域包括ケアシステムの推進 (イ) 仕組みの基礎的理解 ①保険制度としての基本的仕組み、②介護給付と種類、③予防給付、④要介護認定の手順 (ウ) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ①財政負担、②指定介護サービス事業者の指定 【演習】 ・介護サービスや地域支援の役割など、その流れについてグループ討議を行い、理解を深めていく。
(2) 医療との連携とリハビリテーション①	1.5 時間	【講義内容】 2 医行為と介護② 訪問看護③ 施設における看護と介護の役割・連携
(2) 医療との連携とリハビリテーション②	1.5 時間	【講義内容】 ④リハビリテーションの理念 【演習】 ・リハビリテーション医療と介護の連携についてグループ討議の中で重要性を探る。
(3) 障害福祉制度及びその他制度	3 時間	【講義内容】 (ア) 障害者福祉制度の理念 ①障害の概念、② I C F（国際生活機能分類） (イ) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ①介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (ウ) 個人の権利を守る制度の概要 ①個人情報保護法、②成年後見制度、③日常生活自立支援事業
合計	9 時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
(1) 介護におけるコミュニケーション	3時間	<p>【講義内容】</p> <p>(ア) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <p>①相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、②傾聴、③共感の応答</p> <p>(イ) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <p>①言語的コミュニケーションの特徴、②非言語コミュニケーションの特徴</p> <p>(ウ) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <p>①利用者の思いを把握する、②意欲低下の要因を考える、③利用者の感情に共感する、④家族の心理的理解、⑤家族へのいたわりと励まし、⑥信頼関係の形成、⑦自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、⑧アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>(エ) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <p>①視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、②失語症に応じたコミュニケーション技術、③講音障害に応じたコミュニケーション技術、④認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>【演習】</p> <p>2人一組で、状況、状態に応じた利用者・介護者双方向のコミュニケーションのロールプレイングを行う。</p> <p>・グループに分かれ、ロールプレイングでの気づきを話し合う。</p>
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	<p>【講義内容】</p> <p>(ア) 記録における情報の共有化</p> <p>①介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、②介護に関する記録の種類、③個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、④ヒヤリハット報告書、⑤5W1H</p> <p>(イ) 報告</p> <p>①報告の留意点、②連絡の留意点、③相談の留意点</p> <p>(ウ) コミュニケーションを促す環境</p> <p>①会議、②情報共有の場、③役割の認識の場（利用者とは頻りに接触する介護者に求められる観察眼）、④ケアカンファレンスの重要性</p> <p>【演習】</p> <p>・個別援助計画書、ヒヤリハット報告書を実際に作成する。</p> <p>・グループに分かれ、カンファレンスの模擬体験をする。</p>
合計	6時間	

6 老化の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	<p>【講義内容】</p> <p>(ア) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ①防衛反応（反射）の変化、②喪失体験</p> <p>(イ) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ①身体的機能の変化と日常生活への影響、②咀嚼機能の低下、③筋・骨・関節の変化、④体温維持機能の変化、⑤精神的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>【演習】</p> <p>・グループに分かれ、老化に伴う心身の変化、かかりやすい疾病について討議する中で、生理的な側面から理解することの重要性を考える。</p>
(2) 高齢者と健康	3時間	<p>【講義内容】</p> <p>(ア) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ①骨折、②筋力の低下と動き・姿勢の変化、③関節痛</p> <p>(イ) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ①循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、②循環器障害の危険因子と対策、③老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）、④誤嚥性肺炎、⑤症状の小さな変化に気付く視点、⑥高齢者は感染症にかかりやすい</p> <p>【演習】</p> <p>・症状の小さな変化にどのようにすれば気づけるか、グループ討議の中で理解を深める。</p>
合計	6時間	
7 認知症の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
(1) 認知症を取り巻く状況	1.5時間	<p>【講義内容】</p> <p>認知症ケアの理念 ①パーソンセンタードケア、②認知症ケアの視点（できることに着目する）</p>
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5時間	<p>【講義内容】</p> <p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ①認知症の定義、②もの忘れとの違い、③せん妄の症状、④健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、⑤治療、⑥薬物療法、⑦認知症に使用される薬</p> <p>【演習】</p> <p>・健康な高齢者の物忘れと認知症による記憶障がいの違いについて、グループ討議の中で理解を深める。</p>

(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5 時間	【講義内容】 (ア) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ①認知症の中核症状、②認知症の行動・心理症状（B P S D）、③不適切なケア、④生活環境で改善 (イ) 認知症の利用者への対応 ①本人の気持ちを推察する、②プライドを傷つけない、③相手の世界に合わせる、④失敗しないような状況をつくる、⑤すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、⑥身体を通したコミュニケーション、⑦相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、⑧認知症の進行に合わせたケア
(4) 家族への支援	1.5 時間	【講義内容】 ①認知症の受容過程での援助、②介護負担の軽減（レスパイトケア） 【演習】 ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて、グループ討議を行う中で理解を深めていく。
合計	6 時間	
8 障害の理解(3 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
(1) 障害の基礎的理解	1 時間	【講義内容】 (ア) 障害の概念と I C F ① I C F の分類と医学的分類、② I C F の考え方 (イ) 障害者福祉の基本理念 ③ノーマライゼーションの概念
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1 時間	【講義内容】 (ア) 身体障害 ①視覚障害、②聴覚、平衡障害、③音声・言語・咀嚼障害、④肢体不自由、⑤内部障害 (イ) 知的障害 ①知的障害 (ウ) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ①統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患、②高次脳機能障害、③広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (エ) その他の心身の機能障害
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	【講義内容】 家族への支援 ①障害の理解・障害の受容支援、②介護負担の軽減 【演習】 障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について、グループ検討の中で理解を深める。
合計	3 時間	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本知識の学習	(1) 介護の基本的な考え方①	3 時間 【講義内容】 ①理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）②法的根拠に基づく介護
	(1) 介護の基本的な考え方②	3 時間 【演習】 ・ICFに基づく生活支援についてグループ討議をおこない介護とは何かを考えることで、今後の技術演習に活用していく。
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間 【講義内容】 ①学習と記憶の基礎知識、②感情と意欲の基礎知識、③自己概念と生きがい、④老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、⑤こころの持ち方が行動に与える影響、⑥からだの状態がこころに与える影響 【演習】 ・グループ討議により、人の記憶の構造や意欲等を支援に結び付けて考えていく
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間 【講義内容】 ①人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、②骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、③中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、④自律神経と内部器官に関する基礎知識、⑤こころとからだを一体的に捉える、⑥利用者の様子の普段との違いに気づく視点 【演習】 ・利用者の様子から普段とは違う身体的変化に気づくにはどうすればよいか、グループ討議を行う。 ・介護教材を活用して人体について理解を深める。
生活支援技術の講義・演習	(4) 生活と家事①	2 時間 【講義内容】 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 4 生活歴、②自立支援、③予防的な対応
	(4) 生活と家事②	3 時間 ④主体性・能動性を引き出す、⑤多様な生活習慣、⑥価値観 【演習】 ・生活の基本的領域の理解と配慮について、グループ討議の中で理解を深める。
	(5) 快適な居住環境整備と介護	3 時間 【講義内容】 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ①家庭内に多い事故、②バリアフリー、③住宅改修、④福祉用具貸与 【演習】 ・実際に福祉用具等を見て、触れることにより上記内容についての理解を深める。

生活支援技術の講義・演習

<p>(6) 整容に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>【講義内容】 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ①身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、②身じたく、③整容行動、 ④洗面の意義・効果</p> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗面、整髪、ひげの手入れ、爪の手入れ、化粧、衣服の着脱（ペア）の実技演習を行う。 ・装うことや整容の意義について、グループ討議を行う。
<p>(7) 移動・移乗に関連した ところとからだのしく みと自立に向けた介護</p>	<p>8 時間</p>	<p>【講義内容】 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具と その活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻 害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留 意点と支援</p> <p>①利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、②利用者の自然な動き の活用、③残存能力の活用・自立支援、④重心・重力の動きの理解、 ⑤ボディメカニクスの基本原理、⑥移乗介助の具体的な方法（車いす への移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全 面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、⑦移動介助（車いす・歩 行器・つえ等）、⑧褥瘡予防</p> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗の方法を実技の中 で学ぶ ・車いすの操作、ベット、車いす間の移乗 ・車いす、洋式トイレ間の移乗 ・屋外での移動介助の練習（車いす・歩行器・杖等） ・褥瘡予防のための体位交換（シーツ交換等） ・視覚障害者、肢体不自由者の対応
<p>(8) 食事に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>【講義内容】 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器 の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこ ろとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <p>①食事をする意味、②食事のケアに対する介護者の意識、③低栄養の 弊害、④脱水の弊害、⑤食事と姿勢、⑥咀嚼・嚥下のメカニズム、⑦ 空腹感、⑧満腹感、⑨好み、⑩食事の環境整備（時間・場所等）、⑪ 食事に関する福祉用具の活用と介助方法、⑫口腔ケアの定義、⑬誤嚥 性肺炎の予防</p> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嚥下の体操、水分摂取の方法、食事介助の方法などを利用者の状況 によりその違いを学ぶ。 ・口腔ケア（ペア）の実技演習を行う。

生活支援技術の講義・演習	(9) 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3 時間	<p>入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>①羞恥心や遠慮への配慮、②体調の確認、③全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、④目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、⑤陰部洗浄（臥床状態での方法）、⑥足浴・手浴・洗髪</p> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴の介助方法、全身清拭の方法、足浴・手浴・洗髪の方法など、清潔保持に関連する実技演習を行う。
	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8 時間	<p>【講義内容】</p> <p>排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>①排泄とは、②身体面（生理面）での意味、③心理面での意味、④社会的な意味、⑤プライド・羞恥心、⑥プライバシーの確保、⑦おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、⑧排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、⑨排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、⑩一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、⑪便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）</p> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレとベッドの介助と移乗の方法 ・横臥の状態での尿器等の使用方法和介助方法 ・おむつ交換の方法 ・ 陰部洗浄の方法
	(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>①安眠のための介護の工夫、②環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、③安楽な姿勢・褥瘡予防</p> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安楽な姿勢、体位の実技、寝室の工夫、安眠のための環境について、実技から考えていく。 ・ベットメイキングを実技で学ぶ。 ・夜間に多い緊急時の対応について実技で学ぶ。
	(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <p>①終末期ケアとは、②高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、③臨終が近づいたときの兆候と介護、④介護従事者の基本的態度、⑤多職種間の情報共有の必要性</p> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生から死への過程の中で介護者としてどのようにかかわっていくのか、グループ討議の中で理解を深めていく。

生活支援技術演習	(13) 介護過程の基礎的理解	9 時間	【講義内容】 ①介護過程の目的・意義・展開、②介護過程とチームアプローチ 【演習】 ・グループに分かれて、事例についてのアセスメントを考え、介護計画を作成して発表する中から様々な課題を見つけていく。
	(14) 総合生活支援技術演習	9 時間	【講義内容】 (総合的な介護技術の再確認) こころとからだのしくみと生活支援技術で学習してきた介護技術について理論・技術を再確認し、習得度を高める。 (事例による展開) 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ○事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例 1.5 時間程度で上のサイクルを実施する) ○事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施
合計		75 時間	
10 振り返り (4 時間)			
(1) 振り返り	2 時間	【講義内容】 ①研修を通して学んだこと ②今後継続して学ぶべきこと ③根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) 【演習】 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを、グループ討議の中で振り返りと確認を行う。	
(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2 時間	【講義内容】 ①継続的に学ぶべきこと ②研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(off-j t, o j t)を紹介	
合計	4 時間		
全カリキュラムの合計時間	130 時間		

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。